

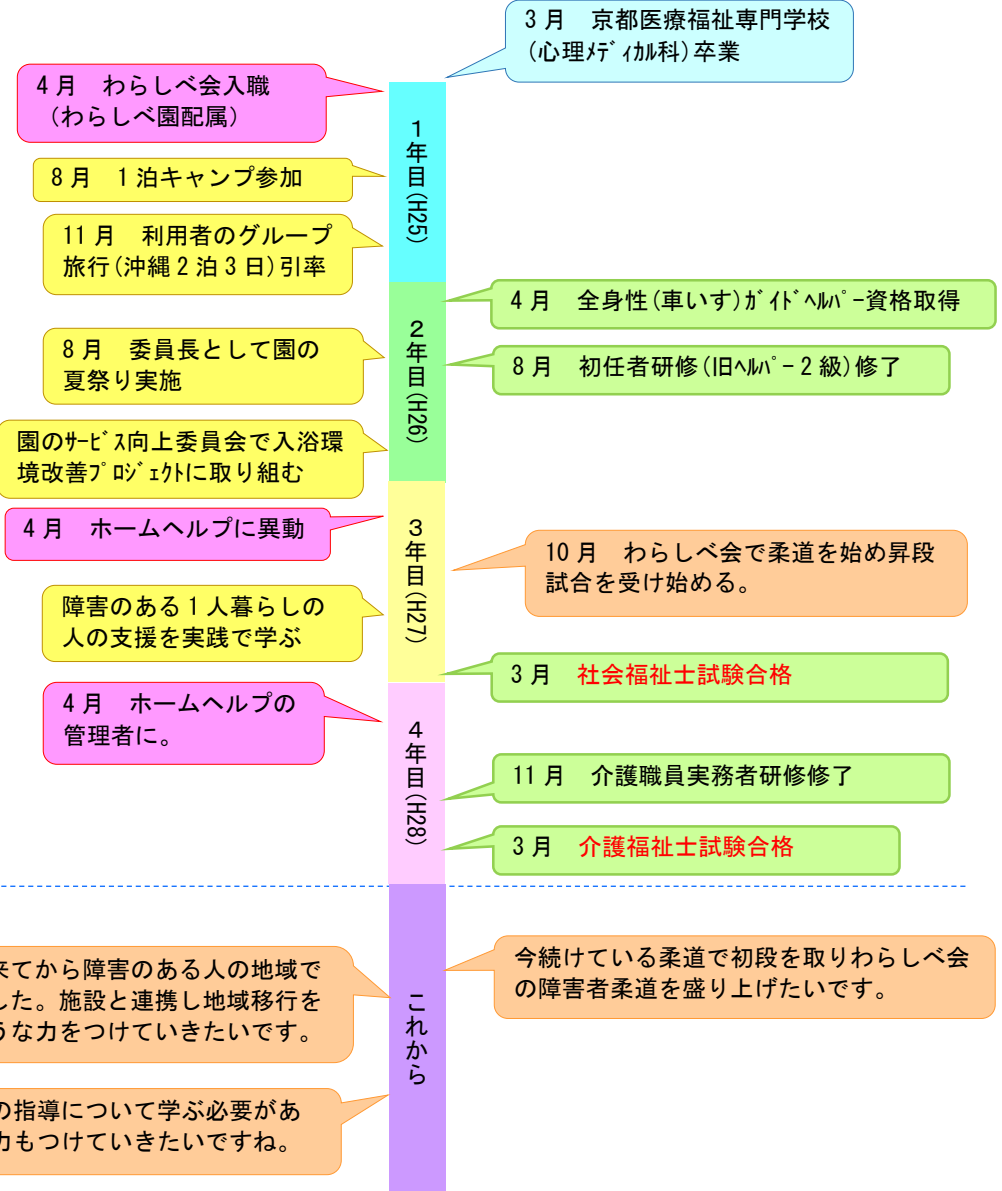
わらしべ会の先輩が描く実例キャリアビジョン



内田淳一さん(29歳)
 ・現在ホームヘルプ管理者
 ・社会福祉士、介護福祉士
 ・実家は枚方市内にあるが現在1人暮らしをしている。

ポイント

- 計画的な資格取得
- 学びと実践のつながり
- 新たな挑戦



ホームヘルプに来てから障害のある人の地域での生活を学びました。施設と連携し地域移行を進めていけるような力をつけていきたいです。

管理者になって事業の運営や職員の指導について学ぶ必要があることを感じています。こうした力もつけていきたいですね。

【内田淳一さんのコメント】

街で見かける障害者の人を見て「この人たちは普段、どんな生活をしているのだろう」と興味を持ち、この仕事を選びました。7月の就職フェアでわらしべ会のブース行ったのがわらしべ会を知ったきっかけです。

入職2年目に夏祭りの実行委員長を任せられたことがありました。私はイベントの企画が苦手なことで今までやったことがなく、なにをどうしたらよいか全く分からない状態でした。ですが、先輩や同期の同僚に助けを借りながら無事に夏祭りを実行することができた時の達成感、今でも印象に残っています。こういったイベントだけでなく、利用者支援においても、個人ではなくチームで動くことで、より良い支援につながるものだと感じています。



1年目に利用者と沖縄に行きました。観光や移動、宿泊、何から何までいい勉強になりました。



キャンプではバリアだらけの空間で介助することを学びましたが、その分一番の思い出になりました。



わらしべ会の障害者柔道にかかわるようになってから柔道を始めました。初段目指します。